

秋窓雜記

(一)

都詩夫

今年は雨が早い。秋になつてからもう三度目だ。昨夜から降り出だらしい。朝の十時頃の庭へ出で見る。白い大きな雲の間にかかる霜蒸氣の思はれる位の太陽が光輝を放つ。疲れた顎の中が何とか重い。

月曜朝、薄い朝靄はもう

夔になつて、寒くにもつれぬ

て居る。何より向水足りない

からか。葉は小さく、五つ吹

いた花も何に付すほら

つやかな色の上へとしてか

わざと立ち佑ねしたの

を見ると、その他の庭の

黄枯れたダリアの葉の色や、

もたれたまゝ立つて居る

の葉はいかにも秋らしい

秋が来る。日本當に人間に歸つたやうながする。一年中忙しくして

お考へる暇もないが、秋になると

かしらない面白い想念が浮かんでくる。人生をこのけむりたま

へた時がある。フルゲーフに

人生は結局無で、このけむりや

うなものだかがんがへるのである

東の間、神経なカーネルを書かないと

はかうした神経な運動のが、それは甘い春の宵の少年

はかうした秋のあさにはかうした闇

だらしない朝の十時頃の庭へ出で

見ると、白い大きな雲の間にかかる

霜蒸氣の思はれる位の太陽が光輝を放つ。疲れた顎の中が何とか重い。

月曜朝、薄い朝靄はもう

夔になつて、寒くにもつれぬ

て居る。何より向水足りない

からか。葉は小さく、五つ吹

いた花も何に付すほら

つやかな色の上へとしてか

わざと立ち佑ねしたの

を見ると、その他の庭の

黄枯れたダリアの葉の色や、

もたれたまゝ立つて居る

の葉はいかにも秋らしい

秋が来る。日本當に人間に歸つたやうながする。一年中忙しくして

お考へる暇もないが、秋になると

かしらない面白い想念が浮かんでくる。人生をこのけむりたま

へた時がある。フルゲーフに

人生は結局無で、このけむりや

うなものだかがんがへるのである

東の間、神経なカーネルを書かないと

はかうした神経な運動のが、それは甘い春の宵の少年

はかうした秋のあさにはかうした闇

だらしない朝の十時頃の庭へ出で

見ると、白い大きな雲の間にかかる

霜蒸氣の思はれる位の太陽が光輝を放つ。疲れた顎の中が何とか重い。

月曜朝、薄い朝靄はもう

夔になつて、寒くにもつれぬ

て居る。何より向水足りない

からか。葉は小さく、五つ吹

いた花も何に付すほら

つやかな色の上へとしてか

わざと立ち佑ねしたの

を見ると、その他の庭の

黄枯れたダリアの葉の色や、

もたれたまゝ立つて居る

の葉はいかにも秋らしい

秋が来る。日本當に人間に歸つたやうながする。一年中忙しくして

お考へる暇もないが、秋になると

かしらない面白い想念が浮かんでくる。人生をこのけむりたま

へた時がある。フルゲーフに

人生は結局無で、このけむりや

うるものだかがんがへるのである

東の間、神経なカーネルを書かないと

はかうした神経な運動のが、それは甘い春の宵の少年

はかうした秋のあさにはかうした闇

だらしない朝の十時頃の庭へ出で

見ると、白い大きな雲の間にかかる

霜蒸氣の思はれる位の太陽が光輝を放つ。疲れた顎の中が何とか重い。

月曜朝、薄い朝靄はもう

夔になつて、寒くにもつれぬ

て居る。何より向水足りない

からか。葉は小さく、五つ吹

いた花も何に付すほら

つやかな色の上へとしてか

わざと立ち佑ねしたの

を見ると、その他の庭の

黄枯れたダリアの葉の色や、

もたれたまゝ立つて居る

の葉はいかにも秋らしい

秋が来る。日本當に人間に歸つたやうながする。一年中忙しくして

お考へる暇もないが、秋になると

かしらない面白い想念が浮かんでくる。人生をこのけむりたま

へた時がある。フルゲーフに

人生は結局無で、このけむりや

うるものだかがんがへるのである

東の間、神経なカーネルを書かないと

はかうした神経な運動のが、それは甘い春の宵の少年

はかうした秋のあさにはかうした闇

だらしない朝の十時頃の庭へ出で

見ると、白い大きな雲の間にかかる

霜蒸氣の思はれる位の太陽が光輝を放つ。疲れた顎の中が何とか重い。

月曜朝、薄い朝靄はもう

夔になつて、寒くにもつれぬ

て居る。何より向水足りない

からか。葉は小さく、五つ吹

いた花も何に付すほら

つやかな色の上へとしてか

わざと立ち佑ねしたの

を見ると、その他の庭の

黄枯れたダリアの葉の色や、

もたれたまゝ立つて居る

の葉はいかにも秋らしい

秋が来る。日本當に人間に歸つたやうながする。一年中忙しくして

お考へる暇もないが、秋になると

かしらない面白い想念が浮かんでくる。人生をこのけむりたま

へた時がある。フルゲーフに

人生は結局無で、このけむりや

うるものだかがんがへるのである

東の間、神経なカーネルを書かないと

はかうした神経な運動のが、それは甘い春の宵の少年

はかうした秋のあさにはかうした闇

だらしない朝の十時頃の庭へ出で

見ると、白い大きな雲の間にかかる

霜蒸氣の思はれる位の太陽が光輝を放つ。疲れた顎の中が何とか重い。

月曜朝、薄い朝靄はもう

夔になつて、寒くにもつれぬ

て居る。何より向水足りない

からか。葉は小さく、五つ吹

いた花も何に付すほら

つやかな色の上へとしてか

わざと立ち佑ねしたの

を見ると、その他の庭の

黄枯れたダリアの葉の色や、

もたれたまゝ立つて居る

の葉はいかにも秋らしい

秋が来る。日本當に人間に歸つたやうながする。一年中忙しくして

お考へる暇もないが、秋になると

かしらない面白い想念が浮かんでくる。人生をこのけむりたま

へた時がある。フルゲーフに

人生は結局無で、このけむりや

うるものだかがんがへるのである

東の間、神経なカーネルを書かないと

はかうした神経な運動のが、それは甘い春の宵の少年

はかうした秋のあさにはかうした闇

だらしない朝の十時頃の庭へ出で

見ると、白い大きな雲の間にかかる

霜蒸氣の思はれる位の太陽が光輝を放つ。疲れた顎の中が何とか重い。

月曜朝、薄い朝靄はもう

夔になつて、寒くにもつれぬ

て居る。何より向水足りない

からか。葉は小さく、五つ吹

いた花も何に付すほら

つやかな色の上へとしてか

わざと立ち佑ねしたの

を見ると、その他の庭の

黄枯れたダリアの葉の色や、

もたれたまゝ立つて居る

の葉はいかにも秋らしい

秋が来る。日本當に人間に歸つたやうながする。一年中忙しくして

お考へる暇もないが、秋になると

かしらない面白い想念が浮かんでくる。人生をこのけむりたま

へた時がある。フルゲーフに

人生は結局無で、このけむりや

うるものだかがんがへるのである

東の間、神経なカーネルを書かないと

はかうした神経な運動のが、それは甘い春の宵の少年

はかうした秋のあさにはかうした闇

だらしない朝の十時頃の庭へ出で

